

再開を11時15分といたします。

〈午前11時07分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

おはようございます。創生クラブの中村です。

今回は、6月県議会開会に当たり新たに県知事になられた花角知事の所信表明をお聞きし、糸魚川市はどのように捉えているのか伺います。

前米山知事の1年半という突然の辞任により、花角知事は、6月10日に行われた県知事選において第10代の知事に就任いたしました。花角知事は、県民の安全・安心な生活の実現に向け、尽力を惜しまず、県民の信頼回復と安定を実現するため多くの課題に一つ一つ着実に取り組み、これまで培ってきた行政経験や人的なネットワークを最大限に生かしながら、県民との対話を行い、県民優先の県政の実現に全力で取り組むと表明しております。花角知事は、国土交通省や副知事の経験があることから、国と太いパイプや副知事時代の経験を生かした活躍ができるものと大変楽しみにしております。

そこで、知事の所信の施策の中には、糸魚川市が今抱えている問題に関係のある部分も多くあることから、知事の掲げた次の6つの項目について質問を行います。

- (1) 人口減少問題への対応について。
- (2) 地域力強化による安全・安心な生活の実現について。
- (3) 地域経済の活性化について。
- (4) 活力ある新潟の実現について。
- (5) 全ての世代が生き生きと暮らせる社会の実現について。
- (6) 教育について。

質問の中でダブる部分もありますが、よろしく願いいたします。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

中村議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、知事同様、本市においても最重要課題として取り組んでいるところであります。

2 点目につきましては、現在進めております地域づくりプランなどにより、地域力を高め、道路や河川などの整備に関しましては、県と連携して取り組んでいく必要があると考えております。

3 点目につきましては、地場産業へのきめ細かく支援をしていくほか、ジオパークや国石ヒスイなどの地域資源を磨き上げ、インバウンド誘客や交流人口の拡大に取り組んでまいります。

4 点目につきましては、人材育成を通じてさまざまな方が活躍できる環境をつくることは、知事の考えと同じであり、そうした環境を整えるために社会資本整備は必要不可欠であると思っております。本市においては、松本・糸魚川連絡道路の早期実現が重要と考えており、県と連携して取り組んでまいります。

5 点目につきましては、知事が課題として挙げる事項のほとんどが、本市にも共通していると感じております。移住・定住や子育て環境、医療と福祉などの充実など、さまざまな角度から県と連携して取り組んでまいります。

6 点目につきましては、ゼロ歳から 18 歳までの子ども一貫教育方針に基づき、地域の未来を担う子供たちの育成に取り組むとともに学力向上や教職員の多忙化の解消など県と連携をしながら進めてまいります。

なお、花角知事は、副知事のころから懇意にさせていただいており、就任以来、短期間で数回にわたって面談いたしており、信頼関係を構築しているものと考えております。今後もより一層連携を強くし、取り組んでまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

知事の所信に沿って、2 回目の質問をいたします。

1 から 6 点、ほとんどが知事の考えと同じという今話をお聞きしましたが、まず 1 点目の人口減少問題ですが、新潟県の推計人口は 230 万人を切り、毎年 2 万人弱の減少を続けていると言われております。厚労省では、昨年生まれた子供は過去最低の 94 万 1,000 人で、2 年連続で 100 万人を下回り、自然減は 40 万 3,000 人と統計を始めて以来、初めて 40 万を超えたということです。

糸魚川市は、合併してから13年が経過しますが、この13年間の人口動態は、どのようなになっているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

合併して、平成17年に国勢調査がございますので、その数字でいきますと4万9,844人となっております。今現在、平成30年の4月では、ホームページで公表してる数字でございますけども、4万3,352人という結果になっておりまして、この13年間で6,492人の減少という状況になっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

6,492人、13年間にいろいろな対策をとってきたというふうに思いますが、今、各地域で地域づくりプラン、一生懸命取り組んでおります。これも人口減に向けての取り組みであります。小泊地域でも地域づくりプラン今始めて、今月で10回目になります。今のところの目標とすれば、年間1件以上のU・Iターンを呼び込む。それから移住者を1件以上ふやそうということで、目標を立てて進めています。

知事は、人口減少問題には特効薬がなく、より効果的な施策を積み重ねていくしかないというふうに言っておりますが、いまだに人口減に歯どめがかからない状態ですが、糸魚川市として、現在どのような人口減に対しての対策をとっているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

糸魚川市におきましても国が定めた地方創生にのっとりまして、まち・ひと・しごと創生総合戦略というものを平成27年に策定いたしまして、取り組みを進めております。今やっぱり人口減少対策としましては、大きく言うと2点だというふうに考えておりまして、取り組みを進めております。

まず1つが、やっぱりU・Iターン、外部からの人材を入れ込むというところが、まず大事だというふうに考えておりまして、特に産業の分野、農林水産業分野、それから、医療・福祉分野などでの人材の確保というところを掲げて取り組みを進めております。特に産業分野におきましては、次世代リーダー、次世代ビジネスリーダーの育成ですとか、資格取得による人材育成のほかに企業説明会や企業見学会などによるU・Iターンの促進に努めておりまして、農林水産業分野の中では、

特に農業になりますけども、やっぱり担い手の確保というのが非常に大事になっておりますので、取り組みを進めております。また、当市の地域資源というのは、非常に多くありますので、そういった資源を活用しながら、新たなビジネス創出、いわゆる創業、事業創出という環境をつくる取り組みも進めております。また、あと医療・福祉の分野では、特に修学資金の活用になりますけども、医療技術者や介護従事者の確保と、こういったところを取り組みを進めております。

こういった取り組みの人材確保をするに当たりましては、インターンシップですとか就職資金の貸し付け、賃貸住宅の家賃補助、空き家の改修への助成とか、そういったところも合わせて、何とかU・Iターンをふやしたいという取り組みを進めております。

もう一つが、結婚・子育ての支援であります。特に出会いの場の創出による結婚支援を初めとする不妊治療や妊産婦検診の助成などの妊娠から出産期の支援というものを行っておりますほか、子ども医療費の助成ですとか予防接種の助成、あと保育料の軽減などによりまして、子育て世帯の経済的な負担を軽減していくと、そういった取り組み。そして、子育て支援センターの設置によりまして、子育て世帯が自由に意見を交換できるような場、そういった取り組みをしながら子育てができる環境を整えるという、この2点、絞って取り組みを進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

今2点の中で多くの支援策が話されましたが、この支援策の中で何か実績が見えたというものがあるのかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

やはり修学資金の助成とかやっていますと、やはりまだ数は少ないんですけども、利用してUターンに誘導的にインセンティブとして働いている部分がございますし、あと家賃補助、やっぱり帰ってきたときにやっぱり助成がないと厳しいという部分もありますので、そういった取り組みをやることによりまして、U・Iターンの促進につながっているというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

いろんな施策をやってるようですが、なかなか若者の地域離れがとまらないということと、それからU・Iターンが少ないと、まだ結果的にあらわれていないのかもしれませんが。

その原因の1つが、やはり所得の低さ、糸魚川市というか新潟県内ですね。県内の所得が、新潟が269万と全国で31位であって、富山県は318万と全国で5位と、その差額は49万円もあります。市振の人口減少問題は、NHKが昨年取り上げておりましたが、当時、斉藤課長もその席

に出ておりました。市振地区からの移住先が84%が富山県だということであります。それは勤め先の関係、医療や子供の関係等いろいろあるかと思いますが、既にもう小学校も廃校になったということであります。今、この地域を何とかしようということで、扇山大輔さんという1人の若い男性が、「Mif（エムアイエフ）」という団体を立ち上げて、どのようにこの地域を活性化させるかというところで頑張っているというふうに聞いております。市でも当時、補助金を出していたんですが、まだその活動は続き、補助金を出しているのかどうか、その辺をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

市振地区の未来のための会という形で、本当に学校の統廃合を契機にして、やっぱり子供とか若い世代、子育て世代が頑張ろうということで、本当に非常に熱心な取り組みをされております。糸魚川市としましても若者の力による地域活性化交流事業というものを立ち上げまして、この会も活動されておりました、今後もう何年かは支援をしながら、何とか自立して、地域のよさを知ってもらうとか、交流の拡大につなげるという取り組みを継続してまいりますので、ことしも継続して取り組んでおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

当時、課長もかかわっていたということであります。地域の頑張り方というのは、どんな感じを受けましたか、斉藤課長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

昨年度あたりからの話ではありますが、1つのやはり小学校がなくなるぞという、そういう危機感から頑張り始めたということで、今ほど企画定住課長のほうからお話があったとおり、現在も継続して頑張っている。自分たちのできることから取り組んでいるというふうに見受けております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

頑張っても学校はなくなってしまうけども。まだその頑張りが続いているということは、大変うれしく私も思っております。やる気がある若い連中がいまだに頑張っているということは、今、糸魚川市駅北でも取り組んでおりますにぎわい創出事業の中でも、市振の頑張っている若者の声を聞き、反映していく必要があるのではないかとこのように思いますが、斉藤課長、今度は担当になります、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

現在、駅北においても今のまちを復興とあわせて元気にしていこうということで、若者がちょっと集まり始めて、団体で活動を始めております。非常にいい、我々としても心強い動きであるなど思ってますし、そういった団体というのは、市振に限らず、ほかの地区にもさまざまに活動をしている部分がありますので、駅北のそういった若者だけに限らず、いろんな形でそういった方々との交流とつながりが我々のほうとしてもお手伝いしながら、それぞれの活動が活発になっていけば、それがまた駅北の復興にもつながっていくというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

市振の取り組みとかいろいろなことが全ての人口減対策にもつながっていきますので、ぜひいろんな話を頑張ってる人たちから聞いていただきたいと思います。

また、能生地域でも市振と同じ現象が起きております。能生地域でもやはり多くの若者が上越で働きに行っております。住所を移した人もいますし、私の住む小泊でも多くの方が上越にもう引っ越したという現状があります。やはり働く場所や給料の差が大きな問題だというふうに言っていますが、今、市振の小学校がなくなったということではありますが、小泊や磯部でも川崎保育園や汐路保育園の閉園が目の前に迫っております。この2園が閉園したら、間違いなく上越へ行く若者がふえてくるだろうというふうに思っております。それを懸念いたしまして、地元の議員と2園の理事長、そして市の担当と協議を行ってきましたが、いまだかつて、まだ市の態度がはっきり見えてきません。このような問題を解決しない限りは、糸魚川市の人口減少問題に歯どめがかかることはないというふうに私は思っております。この2園の問題はどのように考えているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

すみません、反問をお願いします。

○議長（五十嵐健一郎君）

許可いたします。

○市長（米田 徹君）

中村議員に反問させていただきます。

今回の質問、花角知事の所信表明に対しまして、今後どのように取り組んでいくのかというところでお聞きいたしておるわけでございまして、ちょっと詳細に入っておる部分でございまして、この後、詳細に答えられん部分もございますので、内容についてはご理解いただきたいと思っております。

ます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

所信に対して、今後、糸魚川市がどのように取り組んでいくのかというところをお聞きしているわけですが、やはり細かいところまで入っていくと思いますが、その中で答弁できない部分は、できなくてもしょうがないと思います。やっぱりこの人口減少問題に対して、いろんな問題が多くあると思いますので、それに対する質問であります。ぜひ知事の場合は、大きくくくってありますが、糸魚川市問題として捉えれば、細かいところにも入らざるを得ないだろうというふうに思っていますので、答弁をよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

どのように取り組んでいくかという姿勢的なところがございますので、細かいところへ入るとい
うのは、ちょっと準備がなかなかできない部分がございますので、その辺はご容赦いただきたい
思っております。

○議長（五十嵐健一郎君）

反問を終了いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

ご指摘にありましたような保育園等の閉園に伴う市外転出というのは、避けなければならないとい
うふうに思っています。仮に閉園というような話が出てきた場合は、保護者の方、また近隣の園
とも相談しながら、市内での受け入れについて調整してまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

それでは、知事の所信表明の中で、希望する人数の子供を安心して産み育てられる環境づくりが
必要だというふうに知事が申し上げております。やはり上越・糸魚川市で子供を育てるのではなく
て、やはり産み育った糸魚川の中で、やっぱり産み育てていく必要があると思います。やはりその
辺のところを今後、糸魚川市でも考えていく必要があるのではないかなというふうに思いますが、
その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

望んでいる子供の数を産み育てられる環境をつくっていくというのは、非常に重要なことだというふうに思っています。国のほうでは、そういった調査も行ってありますが、望んでいる子供の数を実際に下回った方について調査をお聞きしたところ、約8割の方が子育てや教育にお金がかかり過ぎるからというふうに回答されております。このあたりをヒントに取り組みをしていきたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

やはり市振の小学校と一緒に、保育園単位になりますけど、やはり自分の地域にそういうものがなくなることによって、安心して産み育てられない地域になってくるということが一番懸念してるわけです。やはりその辺をしっかりと市でも取り組んでいていただきたいと思えますし、今、国の話も出ましたが、国のほうでは、人口減対策に本気で取り組むということで、厚労省が人手不足に悩む中小企業の働き方改革が進むよう、勤務間インターバル制度の導入の助成拡充や、地方創生関連では、東京圏から地方に移住し、起業すると最大300万、働き手の確保に悩む地域の中小企業に就職した場合は最大100万、これ少し受け入れしたところでもお金を出さなきゃいけないような制度であります。やはりこのような国の制度をやはり利用して、利用してというか、これからのあれですので、勉強して、地域経済を活性化させる必要があると思うんで、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

今、確かに中村議員が言われたところ、市の新聞報道でも来年の目玉になるのかなというところで起業・創業とかの中小企業の支援ということで、経済産業省ですかね、出しているのかなというふうに思いますが、まだちょっと詳細については、我々も情報収集しておりますので、今後やっぱりそういったところを勉強しながら何とか事業継承とか、つなげていけるように取り組んでいかなきゃいけないと思います。まずは、やっぱり情報の収集をさせていただきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

まだ、これ発表されたばかりなんで、これから詳細についていろいろ出てくると思いますので、国の動向を見ながら糸魚川市独自の政策をつくっていただければありがたいなというふうに思います。

次に、2点目の地域力強化による安全・安心な生活の実現の中で、知事は地震、津波、火山噴火、局地的な豪雨による土砂災害から県民の生命・財産を守ると言っております。地震、津波、火山噴火、豪雨災害、知事が言っていることは、全て糸魚川に当てはまる災害ばかりであります。糸魚川市も今までこのような災害に対していろんな対策を講じてきたと思いますが、糸魚川市独自では、なかなか取り組めない、予算の都合で、ものが多くあるというふうに思っております。

また、先月29日の記者会見で、7月の西日本豪雨に触れて、防災・減災対策は緊急課題だというふうに言っております。知事自身が、初めて編成する2019年度予算で、河川改修を軸とした防災・減災対策を遵守する意向を示しております。その中で、少ない予算で効果が出る方法や、防災力が高まる方法など、ソフト、ハード合わせて考えているというふうに言っていますが、県の情報を待つのではなくて、市の対応を対策を考えて、県に要望していく必要があるというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

河川ですとか、河川、火山、砂防事業に関しましては、非常に、議員おっしゃるように糸魚川市にとって深刻な問題、重要な問題でございます。ただ、独自の施策ということになりますと、残念ながら糸魚川市のほうでは、特に砂防とか火山・砂防等につきまして、事業自体に経験が乏しいもんですから、今の私たちの技術レベルでは、独自の施策を立案して、国・県に提案・要望していけるといふところまでは達していないというふうに考えております。

ただ、じゃあ市はどうするかといいますと、地元の皆さんの声を聞かせていただくと、そういうことに関しましては、国・県に対して、市は最も近い位置に立っておるといふ自負もございまして、地元の声が少しでも事業化につながるように地域の声を適切に効率的に国や県に伝えていくことが重要であるかというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

藤田総務部長。〔総務部長 藤田年明君登壇〕

○総務部長（藤田年明君）

お答えいたします。

今、建設課長のほうではハード的な面で答えましたけれども、私のほうからソフト的な面ということで、やはりハード的な整備というのは、ある程度限界というものがあると思いますので、いざ災害が起こったときにやはり被害者を出さないということで、そういう面では日ごろから住民意識

の高揚、そういったものが特に重要になると思いますし、市のほうでもやはり災害が起きたときに人命を優先して、いち早く防災体制、避難所等、そういったものを体制を整える。そういったことも非常に重要なことだと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

ありがとうございます。よく行われる避難訓練、やはり大切なもんだと私思います。そう言った中でやっぱり生かしていただければなというふうに思いますが、糸魚川市全体が、地すべり指定地、ほとんどが地すべり指定地、山をかんでいる都合、なっているわけですね。そういうところに今まで集水井とか横孔ボーリングをしてきたわけですが、市でやる仕事なり県の仕事なんですが、やはり市でできるハード事業というのはなかなか少ないと思うんですね。そうなれば、地域を守るということになれば、そういったものの掃除、パイプの掃除とかそういうものをやはり要望していく必要があるというふうに思うんですよ。前から私も集水井とか横孔ボーリングの洗浄の要望を行っているんですが、なかなか予算的に順番でやられてるということで、多くができません。知事も一生懸命そういう話もしてくれていますので、やはり県のほうにそういう要望もしていく必要があるのではないかなと思うんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

糸魚川地域整備部では、糸魚川管内で平成30年7月までに全施設の点検を行い、その結果に基づき、来年度以降、緊急度や優先度を考慮し、補修、その中には洗浄等も含まれると思います。それを行っていくというふうに聞いております。これらにつきましても、糸魚川市のほうも維持予算の確保という面で、県に対して要望していきたいというふうに考えておりますけど、県砂防課では、点検結果を集計した後に長寿命化修繕計画をつくっていくんだよという情報も聞いておりますので、その辺の情報収集をしながら効率的な維持管理ができるような取り組みについて、市も一緒になって考えていく必要があると考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

今までもそのようにして進めて、県は来てるというふうに思うんです。やはりもう少しスピードを上げて、知事が一生懸命、防災・減災に対して話をしておりますので、もう少しスピードを上げてやっていただきたいということと、できれば合わせて山のほうで側溝とか水路が大分傷んできて、雨水がほとんど地下に潜ってるという状況も見られます。そういったことも要望していく必要もあ

るし、それから、先ほど田中議員の話にもありました田んぼが地割れしていると、そういったところから水が入って、地すべりが発生するということも考えられますので、そういうものも合わせて検査しながら要望していただきたいというような思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

側溝の維持管理につきましては、私ども管理している施設が非常に多く、また多くの地区からいろんな土砂上げですとか草刈り、水路の整備についてご要望をいただいております。そのような状況でございまして、その全てに応えるというのは当然できないわけでございまして、ふぐあいの状況などを考慮して、どうしても優先度というものを決めながら対応させていただいておるとというのが実情でございまして。

ただ、側溝の土砂上げ等に関しましては、正直、地元をお願いしてやっていただいておりますというのが、ほぼ現実でございまして。ただ逆に、地元が側溝の土砂上げをやっておったら、この石垣の間に何かすき間があつて、水が漏れとるといような情報をいただくというメリットもございまして、それら地元をお願いしつつ、その辺の地元のほうから情報を私どもが手に入れて、そこへ優先度とかというところに反映させていただいた維持管理をしていかなければならないと感じております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

ほかの地域でも一緒だと思いますけど、側溝の土砂上げ等は、地域の方がみんな頑張ってやってくれてるというふうに思うんですね。ただ、いろんな水路が傷んできているということも多く見られますので、そういったこともよく話を聞かなければいけないですし、前から話してる地すべり監視員、これももう草が生い茂っていて、どこにそういう危ない場所があるんかということもわからないという状況が発生しております。ぜひ県のほうと話しして、2人体制で回るとか、草刈りをしながら回るとかという、1人では大変難しいので、その辺も話をさせていただければありがたいなと思いますし、知事のほうでも防災上、必要となる対策が追いついていないということをはっきり申しておりますので、その辺をしっかりと進めていただきたいなというふうに思います。

次に、河川について伺います。

川の氾濫が各地で広がっております。河川の災害を防ぐには、河道拡幅か護岸工事、河床整備等がありますが、最近、工事がされているところが余り見たことがない。河床整備なんかされていないのではないかなというふうに思います。

ことしの7月に2級河川能生川水系整備促進同盟会が、市長を会長に発足いたしまして、まだ2カ月しかたっておりませんが、能生川の河床を下げたいという内容のものであります。その辺の

進捗状況はどうなってるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ことしの7月に発足しました同盟会の活動状況といたしまして、7月に国・県への合同要望というものを開催させていただきました。また、この秋にも国・県に対する要望行動を予定しております。また、設立総会の際に、糸魚川地域振興局地域整備部から能生川の現状についてと題し、講演をいただいております。今後は、地域の皆様も対象にした講演会ですとか現地視察、また防災部局と連携した避難行動訓練などを通じて能生川の河川整備の必要性ですとか、その先の川づくりなどの機運醸成、機運を盛り上げていくことによって、県によるハード整備、地域が中心となって進めるソフト対策、この両輪の防災・減災対策が前進するような活動を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

ぜひ進めていただきたいと、またこれは能生川だけじゃなくて、能生川のこの会をきっかけにして、糸魚川市に何本もそのようなところがありますので、そういうところも合わせて見ていただきたいというふうに思っております。

先ほども国の話をしましたけど、今、国交省でも西日本豪雨や九州北部豪雨などの教訓を踏まえて、河川対策を強化するために地方自治体向けの防災安全対策交付金を21%増の1兆3,400億を要求しているということです。そのほかにも土砂災害対策費や砂防ダム整備費、災害時に物流を滞らせないための緊急輸送道路などの、糸魚川市が今後進めていこうとするような事業に関連した予算組みをしているようであります。この辺の情報もやはり早急に市のほうでキャッチし、これに進んでこの事業を進めていく必要があると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

災害の多い当市におきましても砂防・治山治水事業の推進のためには、国や県の動向を常に注視し、情報収集を一生懸命やまして、予算の確保に努めなければいけないと思っております。その上で、県などと連携して、国に予算の確保について要求をしていきたいというふうに考えております。

もう一点、重要物流道路のことではないかというふうに思っております。重要物流道路というの

は、新たに設定された道路でございまして、地域高規格道路や直轄国道などがこれに該当いたしまして、これに指定されるとさまざまな金銭的メリットもございまして、特に松本糸魚川連絡道路ですとか国道8号について、これらの指定を、事業の要望とともにこれらの指定につきましても要望しているところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

そうですね。私もやっぱり松本糸魚川連絡道路、それから8号線の親不知、あの辺の道路をこれに絡めればいいのかないかなというふうに思いますので、情報の早い収集をお願いしたいというふうに思います。やはり早いもん勝ちというところがありますので、頑張ってもらいたいと思います。

このような工事を進めるということになると松本糸魚川連絡道路、それから今の8号、それからもう一点、8号のバイパス、それらの工事を始めるとなると莫大もない土砂が出ると思うんですね。この土捨て場の確保が必要になってくるというふうに思います。7.11のときも大変な土砂が出まして、相当な量を運んだというふうに思いますが、糸魚川市はその辺のところをどのように考えているのか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

議員ご指摘のように松本糸魚川連絡道路ですとか、東バイパス国道8号の事業に関しましては、非常に大量の工事残土というものが発生されることがもう想定されます。国や県でも残土対策というものを検討しておりますけど、まだ具体的な方針や対策というのは、決定していないということでございます。市といたしましても、庁内に残土処理につきましてプロジェクトチームというものを立ち上げてございます。それによって残土処理についての検討、また残土、考え方によっては、もしかしたら貴重な資産になる可能性もございまして、その辺の残土処理、残土活用といったプロジェクトを立ち上げて検討しておるという状況でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員、具体的に、詳細に入らんようをお願いしたいと思います。

中村議員。

○13番（中村 実君）

これは国の事業を進めるに大変必要な事業だということなんです。これを進めることによって、国・県の補助もつきやすくなると。糸魚川市でやる気を見せることによって、そういう事業が進むんじゃないかという、そういうことです。どこにつくれとかという、そういう詳細じゃないんです

よ。どういう考えかという、考え方を聞いている。今、答弁がありましたので、それで十分であります。

次に、3番目の地域経済の活性化、その中で訪日外国人が旅行者が過去最高を更新し、大都市から地方へと変わり、二桁の伸びを見せるというふうに知事が申し上げておりますが、新潟県は残念ながら4.3%と一桁であります。これについては、商工観光課が頑張っているということでもありますので、糸魚川市はもう少し、外国人の顔が見えるのももう少しいるのかなというふうに思いますが、糸魚川市の伸びはどんなものでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員のお話のありましたインバウンドの宿泊数につきましては、平成29年度の官公庁の調査によるものでございまして、今の新潟県の4.3%に対応した糸魚川市の数字ということになりますと伸び率は14%というふうになっております。実数で比較しますともう少し伸びている状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

県が4.3%で糸魚川市が14%、随分頑張っているなというふうに思いますが、これも知事の肝いりの事業の1つであります。

ただ、糸魚川市もやっぱりまだまだこの事業が伸びてくるというふうに思うんですね。問題とすれば、通訳や民泊や民宿も合わせた宿泊施設、また看板や他言語のメニューというものが必要になってくると思うんですが、この辺の状況はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ご指摘のとおりインバウンドのお客さんをより多く誘客するためには、受け入れ体制の整備が重要であるというふうに考えております。通訳の件につきましては、ご依頼があった段階で、まずはIISA、国際人材サポート協会にお願いしたりしておりますが、なかなかお仕事の関係もあって、かなり事前にお願ひしないと無理だということもございます。

あと本年1月から通訳案内士の要件が緩和されておりますので、今当市においてもこの通訳案内士の育成に向けた取り組みを進めておるところでございます。また、例えば看板ですとかメニューの英語化につきましても英語が中心でございますけれども、徐々に進めてきております。

いずれにいたしましても現在、糸魚川市としては、団体客の受け入れが主でありますけれども、現在、海外からの個人客というのがふえてきている状況でございますので、それに向けた取り組みも必要であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

食事に行ってもぼちぼちと外国語のメニューが見られるようにはなってきていますかね。まだまだ少ないなというふうに思っております。

ただ、外国の方がふえると地域住民の人たちがびっくりするんじゃないのかなという、じいちゃん、ばあちゃんたちが逃げていくようなそんな気もするんですが、その辺の周知もしっかりしていく必要があると思うんですが、それともう一点、外国人観光客がけがをされたり、途中で病気になったりというようなことがあったときに、どのような対策をとっているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおり外国人の観光客が市内を回遊されるときに顔を合わせて、素知らぬ態度をとったりということになりますとマイナスイメージになりますので、事あるごとにそういうおもてなし講座、現在は飲食店の関係者ですとか、そういう方を中心にやっておるんですけども、一般の市民に対しても笑顔で対応して、日本語でもいいので一声かけていただくとか、そういう取り組みを必要になってくるというふうに考えております。

もう一点、医療の関係なんですけども、現在、医療通訳ということで、これも先ほどのIISAをお願いしているというのが実情でありまして、昨年度、実績は今現在は多くないというふうに聞いておりますけども、今後、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、当市においてもそういう観光客がふえてくることが予想されておりますので、この辺につきましてもIISAを初めとした関係団体と協議をして、整えてまいりたいというふうに考えております。

○議長（五十嵐健一郎君）

質問の途中でございますが、昼食時限のため暫時休憩します。

再開を13時といたします。

（午後0時02分 休憩）

（午後1時00分 開議）

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

先ほどの課長の答弁の中で、今後住民の周知にも努めていくと。また、通訳や案内の人たちも養成していくという話もありました。知事が言うインバウンドを進めるには、大変大事なことだというふうに思いますので、しっかりとよろしく願いいたします。

また、先ほども I I S A の話が少し出ましたが、片言の通訳で補えるけがや病気はちょっとした周りにいる人たちで済むというふうに思いますが、やっぱり高度な医療通訳が必要になったときには、やはり I I S A を頼んでいく必要があると思いますが、今後まだまだ外国観光客がふえるというふうに思っておりますので、けがや病気だけではなくて、年間を通し、外国人観光客の対応をお願いしていく、I I S A をお願いしていく必要もなるのではないかとこのように思いますが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおり今後、外国人の観光客、特に個人の観光客がふえてくるというふうに想定されておりますので、観光協会を含めました受け入れ体制の整備の中で状況を踏まえた上で、それらの I I S A を活用した、活用といいますか I I S A からご協力をいただく受け入れ体制についても検討していく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

今までは、I I S A の場合は高度な医療通訳、例えば出産とかそういったときに頼まれて行ってしまうところが多かったんですが、なかなか年間に何回もそういうのがないんですよね。そういったことで、通訳にいつでも対応できる体制づくりというのは、大変難しいんですよ。年間を通してやはりインバウンドとかそういうものに使ってもらえることによって、ある程度の人材確保ができると思うんで、これから I I S A の活躍が大変必要になってくると思いますので、その辺も困ったときだけ頼むということじゃなくて、やはり年間通して活躍していただきたい場をつくっていただきたいというふうに思っております。

次に、4番目ですが、活力のある新潟の実現の中で、知事は、まちおこしや地域づくりに取り組む人たちや起業や創業する意欲ある人たちを官民が応援していく環境づくりを進めるというふうに言っております。

糸魚川市でも企業支援室があるわけですが、それは今ある企業に対してのサポートを主に行っているというふうに思うんですが、新しく仕事を始める起業するものについては、どのような応援をしているのか、また、最近目立ったようなところでもいいんですが、市内で新たに起業した人がどれほどいるのか、企業団地があるわけですが、企業団地の応募というか利用、話があるのかどうか、そこまでお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

創業・起業への支援といたしましては、市を初め商工会議所、商工会等で創業支援ネットワークというのを組織しております、その中で起業に関するさまざまな指導ですとかそういうものを勉強していただいております。また、最近の主な起業といたしましては、大火の前後を通じまして、町なかで数件、起業がございまして、それに対して創業支援の補助金等を交付しておるところでございます。

また今、能生に企業団地といいますか用地がございしますが、ほかから問い合わせ等があった段階で、その活用を含めてご提案をさせていただいておりますけれども、現時点ではまだその活用には至っていないという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

企業団地、3地域に幾つかあると思うんですが、なかなか難しいですよ。やっぱり場所的なものもあるんでしょうかね。糸魚川を選ぶよりは、上越とか富山方面のほうがいいような気もしますが、企業誘致も今後一緒に進めていく必要があると思うんですが、糸魚川市はICTインフラがある程度整備されております。これらを活用し、糸魚川に来ていただき、起業していただくという方法もあると思いますが、今後、駅北復興と絡めてIT企業の誘致に力を入れてく、それも必要になってくるのではないかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおり今、全国の自治体では、IT系の企業の、特にサテライトオフィス等の誘致が盛んでございます。徳島県の神山町は特に有名ですけども、そのほかにも県単位で取り組みも進めているところがございます。ただ、そういうところが全国に多いものですから、競争は非常に厳しいものであるというふうに考えておりますし、また現地での人材の確保ですとか、宿泊場所等についての課題であるというふうに考えております。

市におきましては、現在のテレワーカーの養成に向けて取り組んでおるところでございます、今後こういった人材の活用を見据えて、できればサテライトオフィス等の誘致も検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

いろんなところでそういう取り組みが進んでいるというのは、私も承知しております。駅北の特別委員会でも視察いたしました長野県上田市のHanaLab. コワーキングスペース、ここも机

や椅子とか複合機など、自由に活用できるということで、このところは大体60人ぐらいの女性の方がシフトを組んで働いておるのを視察行ってきました。やはり糸魚川市でも創出広場が、これから活用していくということでもありますので、その周りにも空き家がたくさんありますので、空き家を活用するということが大事ではないかなと。その周りの空き家だけじゃなくて、いろんなところに住みやすい環境のいい空き家がありますので、その辺であえて企業誘致を行えばいいのかなというふうに。若者のU・Iターンの起爆剤にも私なるというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおり町なかのにぎわい創出のためには、あそこのにぎわい創出広場を中心としまして、人の動きを出していく中で、そういうIT企業系のサテライトオフィスですとか、特にこれから起業や創業をしていく人たちとか若い人立ち向けにコワーキングスペース等の整備も視野に入れて考えていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

先ほど話が課長からありました神山町、ここは人口わずか6,300人、ここは光ファイバーも完備し、ICTインフラが十分なことから、神山町に興味を持ったスマートフォン名刺管理アプリの開発者3名が、2週間住んで、集中して仕事できることから、このまちに移り住んだという。大変いいとこだというので、人が人を呼んで、今では人口増につながるということであります。

糸魚川市にも、糸魚川市にもというか東京糸魚川会や関西糸魚川会がありますので、そういったところと話をしながら、また、そういうところから情報を流していただきながら糸魚川をPRする必要があると思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおり東京糸魚川会ですとか関西糸魚川会の中で、ご商売をされている方ですとか成功されていらっしゃる方等もおいでになりますので、当市の情報収集だけでは大変限られたエリアになってまいりますので、そういう糸魚川にゆかりのある方をお願いしながら、そういうところからまた情報を集めて取り組んでいきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

知事も一つ一つの積み重ねがあれば人口増につながるというふうに言っておりますので、もう一

つ糸魚川市としての目玉をつくれれば人口増につながると思いますので、よろしく願いいたします。

5番目ですが、全ての世代が生き生きと暮らせる社会の実現であります。糸魚川市内の既婚者の中で、経済的な理由や仕事と子育ての不安から出産を諦めているというような話を私はお聞きするんですが、知事は、全ての世代が生き生きと暮らせるような不安感から出産を諦めることなく、夫婦が希望する子供を持てるような取り組みを行いたいというふうなことも言ってるんです。やはり経済的な理由で子供を諦めるという人が多いようなんですが、糸魚川市として現状そのようなところがありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

私どもの耳に直接入ってる事例はございませんけども、午前中に国の調査結果の話をさせていただきました。そういった中で出産や子育てをしていく上では、やっぱり経済的な面ですとか仕事と子育て両立について不安に感じている方がおられると思います。そういったことが不安材料になっているというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

この辺は一般企業でも産休が余り長くないんですよね。そういったこととか、旦那の給料だけではなかなか子供をつくれないうような話を私聞くことがあるんですよ。保育所に預けたくてもお金がかかるというような話であります。貧困まで行かなくても2人目を諦めたという話もお聞きします。何とか今後、産み育てられる環境づくり、当然、給料の問題も多分あると思いますが、その辺に力を入れていっていただければなというふうに思います。

先日の新聞に妊産婦の自殺の話が載っていました。年間で120人の女性が、妊婦中から産後にかけて自殺しているということでもあります。出産後の自殺が92人で、やはり子育てへの不安やストレスによって起きる産後鬱が原因だということでもあります。

糸魚川市として、母親が母子手帳をいただいてから、どのように親御さんと親と母親と接しているのか、その辺の話をできる体制があるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

平成22年の組織改正で、こども課というのを設置させていただきました。その以降、妊娠届から出産、検診、子育てに係るまで、一貫してかかわる体制をとっておりますので、サポートはできているというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

体だけではなくて、なかなか体調が悪いとかそういうのは話ができると思うんですよ。だけど、お金がなくて今困ってるんだという、そういう相談というのは非常にしづらいと思うんですよ。そういう相談ができる体制も整っているんでしょうかというところを聞きたいんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

今ほど申し上げた体制に加えまして、家庭児童相談員も配置しております。そういった形で経済的な部分についても相談に応じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

じゃあそういう相談の中で、このような話というのは出てきているものですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

今、産後鬱の話だと思いますが、自殺した事例というのは、私、把握しておりませんが、メンタル面で苦勞されておられる方がおられるのは実態です。そういった方につきましては、今ほど申し上げました家庭児童相談員ですとか、市の保健師がかかわって、医療機関ですとか、関係機関との連携にも努めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

子育ての不安やそういうことで産後鬱になるという、それが自殺につながるということで、糸魚川市にあるということではなくて、全国的に見てという話なんですが、やはりその辺の気持ちを酌み取って聞き取れるような病院と行政とそういうところで、情報を共有しながらそういう人たちが

話を聞けるような体制をつくっていただきたいと思います。糸魚川市でもゼロ歳から18歳ということで頑張っておりますが、なかなか所得の低い方は保育園に預けたり、そういうこともできないというふうに思いますので。今あれですかね、低所得者の場合は、何か免除みたいなのはあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

今、保育料の関係だというふうにお聞きしてお答えいたしますけど、現制度では、保育料は所得に応じて段階的に軽減を図っております、例えば非課税の母子世帯ですとか、第3子については無料としております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

もう少し拡充できれば一番いいんですけど、なかなか難しい問題もあるかと思っておりますので、今後、拡充に向けて頑張っていただきたいなど。

最後に6番目なんですが、ちょっと時間がないので、知事は、人づくりは新潟県が持続ある発展をするための礎であり、根幹であると述べております。そのためには、児童生徒の悩みを適切にすくいあげ、教員一人一人が多忙化解消のために取り組んでいかなければいけないというふうに言ってますので、糸魚川市も多忙に取り組んでいただきたいと思っております。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で中村議員の質問が終わりました。

次に、渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。〔17番 渡辺重雄君登壇〕

○17番（渡辺重雄君）

清政クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告をいたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

今回は、糸魚川市の地域資源の現状と活用、情報発信についてであります。

糸魚川市のホームページなどによる糸魚川市の紹介では、「面積は東京23区よりも広く、面積全体の9割が森林原野であり、海岸、山岳、溪谷、温泉など変化に富んだ個性豊かな自然に恵まれております。また、森林資源やヒスイ・石灰石等の鉱物資源や水資源など地域資源が豊富で、フォ